

## 申36・37号夏季手当補給実現を目指そう!

# 2023年度期末決算「増収・増益、3期連続の増収」でも 売り上げ人件費率は過去最低

売り上げ人件費率とは…営業収益に占める人件費の割合。人件費率の低下はモチベーション低下や離職率に直結  
現場の奮闘で過去最高益 2018年度比94%まで業績回復!



4月30日に発表されたJR東日本の2023年度期末決算、連結では増収増益、セグメント別では運転事業、流通・サービス事業、その他で増収増益、第3四半期での上方修正を上回る好決算でした。単体でも過去最高の2018年度営業収益2兆1133億円と比較して94%にあたる1兆9872億円にまで回復しています。

■JR東日本 2024年3月期決算実績（単体）

	2023年3月期	2024年3月期	増減	対前年比
営業収益	1兆7655億円	1兆9872億円	+2217億円	112.6%
営業利益	909億円	2538億円	+1628億円	279.1%
経常利益	460億円	2023億円	+1563億円	439.8%
当期純利益	524億円	1466億円	+942億円	279.8%

■JR東日本の売上人件費率

	年度	人件費率
会社発足時	1987年	27.99%
過去最高	2000年	34.55%
過去最低	2023年	20.46%

※2022年度は22.35%

好業績に伴う株主配当の見直し  
110円→140円は当然。ならば  
夏季手当の補給も当然です。

業績反映・業績連動という手当  
一時金の性質から鑑みれば適切に  
社員還元すべきです。

